

平成29年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会議事録

平成30年1月26日（金）10:00～11:45

倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

1 開会

松井会長あいさつ

2 議事

議案第1号 倉敷市体育章内規の改正について

資料に基づき事務局から説明。

以下、出席者意見。

【延原委員】

①について、事前にいただいていた資料から変更があり、「原則として」という文言が削除されている。そうなった場合、想定外のことに対応ができない。一昨年、勝見洋介という県外在住で倉敷市出身の剣道の選手が全日本選手権で優勝したが、倉敷市は表彰していない。今後もそのような選手が何人か出てくると思うが、「原則」という言葉を削除した場合、そういった選手を表彰することができなくなってしまう。「原則」は残しておけば良いのでは。県外在住でも、倉敷市出身者で、全日本選手権で優勝するような選手は表彰するべきだと思う。その点についてはっきり明記しても良いとは思いますが、めったにあることでもないで、「原則として」で良いと思う。

②について、書き方がわかりにくい。「ふるさと選手として出場した場合は」とはっきり明記すれば良いのでは。

【事務局 三宅主事】

①、②について、おっしゃるとおりであり、そのようにさせていただく。

議案第2号 平成29年倉敷市体育章受章候補者の選考・推薦について

資料に基づき事務局から説明。

今回、受章候補者に該当しなかった被推薦者として山本和矢選手を挙げている。規模からして国際大会とは言い難いため対象から外したが、岡山県体育協会では、何か国以上を国際大会とするといった内規を定めている。倉敷市としても、県を参考にしながら、今後内規を改定する必要があると考えている。

以下、出席者意見。

【松井会長】

体育振興功労者について、競技スポーツからの推薦が多く目につくため、生涯スポーツの分野にも推薦をいただけるよう、広く周知していただきたい。

【守屋委員】

山本選手について、25回を重ねてきた歴史ある国際大会に倉敷市出身の選手が出場し、優勝するという事は、なかなかないことであり、表彰してあげても良いのでは。日本代表になるためにどのような選考があったのかにもよるが。

【事務局 三宅主事】

日本代表には、各地区で行われた選考会を突破して選ばれている。

【斉藤委員】

私自身、交流と名のつく大会に何回か出場したことがあるが、他大会と比べるとレベルが低いように感じる。国体やインターハイ、全中の優勝と同レベルのものではないと思う。

【向井副会長】

事務局の判断としては、日本代表の基準や大会のレベルでなく、参加国が少ないという理由で対象外としている。その部分については、今後内規の改正が必要。

【事務局 北島課長】

岡山県体育協会の内規では5か国以上と定めている。倉敷市として内規を定めているわけではないが、県の基準を参考にさせていただきながら、対象外として提案

している。

【松原委員】

規程では国際大会で3位以内入賞が対象となっているが、4選手団が出場する大会で3位以内というのは、さほど難しいことではない。出場規模も重要な要素では。

【延原委員】

開催地である茨城県選手団が出場しているということは、県代表のチームが他国の代表チームと対等に試合ができると想定されているということであり、体育章相当の大会ではないという理由で外せば良いのでは。

【松井会長】

今回は事務局案のまま、対象外とさせていただく。

【延原委員】

先程、勝見洋介の話をさせていただいたが、今年の9月に世界選手権大会があり、メンバーに選ばれる可能性がある。優勝する可能性が高いため、どのように対応するか検討されていた方が良くと思う。

【事務局 三宅主事】

世界選手権大会で優勝された場合、倉敷市スポーツ栄誉賞に該当する。栄誉賞に関しては、在勤・在住の要件を満たしていない場合でも本市出身者、または本市出身者で構成されている団体であれば表彰の対象となる。

【事務局 北島課長】

3年前に勝見選手が世界選手権で優勝された際に、勝見選手が倉敷市出身という認識が無く漏らしていた可能性がある。9月に世界選手権で優勝された場合には、スポーツ栄誉賞で対応させていただく。

議案第3号 倉敷市スポーツ振興基本計画について

資料を基に事務局から説明。

以下、出席者意見。

【延原委員】

算出基準の欄で、数値がなく斜線で記されている目標がなぜまだ残っているのか。

【事務局 吉原主事】

資料2の進行管理票で事業ごとの目標を定めているが、すべての事業で目標を数値化できるわけではなく、数値化できないものについては斜線で示させていただいている。

【延原委員】

スポーツ少年団のところに目標の数値が無いことが非常に気になる。岡山県全体のスポーツ少年団への加入率を見ると、倉敷市の加入率が非常に低い。倉敷市が上がれば、岡山県の数値が上がる。なんとか、そういった数値目標を作っていただけないものか。

【松井会長】

他にも数値が入っていないところがある。所管が違っても、倉敷市のスポーツ推進審議会を行っているわけであり、事務局が説明して目標を作っていただきたい。スポーツ振興課が所管している事業だけを審議しに来ているわけではない。数値目標を入れないのであれば、消した方が良い。ちなみに、岡山県の審議会では、福祉や教育の部門の担当部署が全て参加しており、各委員からの質問に答えることができている。倉敷市はそういうシステムでないため、違和感がある。

一つの具体例として、東京オリンピックを目前に控える中で、以前は所管が別だったパラリンピックについて、現在はスポーツ庁が取り扱っている。

【事務局 北島課長】

教育委員会に関しては保健体育課に出席をしていただいているため、ご質問をいただいた際にはお応えできるが、障がい部門に関しては、今後依頼させていただく。

【松井会長】

30年度からは数値目標を設定していただき、理想的なことではなく、現実をしっかり見据えて、事務局として進めていただければと思う。

3 報告事項

報告第1号 倉敷市スポーツ推進会議 計画推進部会での取り組みについて
資料を基に事務局から説明。

以下、出席者意見。

【向井副会長】

総合型スポーツクラブの交流大会に参加させていただいたが、今回は一般の方の参加が少なかった。会場が狭かったこともあり、次回はそのあたりを改善してほしい。

4 その他

【延原委員】

アンケートを見ると、28年度の「最近どのようなスポーツを観戦しましたか」という質問が、29年度では「倉敷市内（岡山県内）でどういったスポーツを観戦したいですか」といった質問に変わっている。この結果を比較すると、プロスポーツの試合を見たいが見ることができない人が多い。このギャップを倉敷市は認識されるべき。倉敷市は中核市でプロスポーツに準ずるチームが無く、何もしなくて良いのかと思う。早くしなければ手を出せる競技がなくなる。今ならまだ間に合う。

資料21ページに倉敷市スポーツ推進審議会の条例があるが、平成23年以降、名前だけ変えて中身を変更していないのではないか。旧スポーツ振興法には障がいスポーツの概念がなく、プロスポーツの振興も謳っていなかった。障がい者スポーツ・地域スポーツ・ドーピングは想定外だった。そういった変更点が第2条の部分に見えてこない。

【松原委員】

体育振興功労者の表彰について、競技団体以外の部分はどうかとの話があったが、現在の規則を見ると競技団体を想定しているものになっており、スポーツ推進委員や地域でスポーツの振興に取り組んでいる方を拾い上げるのは難しいのではないか。別規程を設けていただくか、規則の内容を拡大していただければ現実的なものに

なるのかなと思う。

【松井委員】

抜本的な内規，規程の見直しをお願いし，広い範囲で表彰を取り上げてほしい。

その他報告事項

- ・平成30年度に開催予定の全中の御報告（保健体育課）
- ・2020年高校総体の剣道種目岡山県開催（延原委員）
- ・体育章表彰式の日程について（スポーツ振興課）

5 閉会

向井副会長